

上海の日系企業と商工クラブの 10 年 (上海)

▼上海日本商工クラブ法人化 10 周年

今年 7 月 28 日に上海日本商工クラブでは、法人化 10 周年を記念したシンポジウムとレセプションを開催した。中国 (上海) 自由貿易試験区をテーマとしたシンポジウムでは、日本商工会議所の中村利雄専務理事から当商工クラブの発展を願う祝辞をいただいた。レセプションには上海市政府関係者、華東地域の日商クラブ組織に加え、在上海の各国商会組織の関係者も招かれ、日本発の上海アイドルグループである SNH48 のパフォーマンスが披露された。

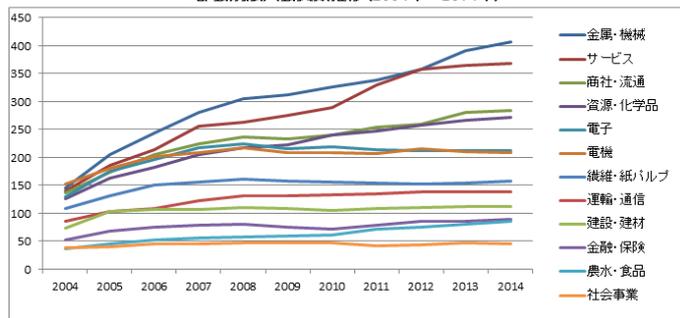


10 周年記念レセプションでの SNH48 のパフォーマンス

▼商工クラブの会員は 10 年前の 1.8 倍

1982 年 12 月に 30 社の企業が集まって組織された上海日本商工クラブは、2004 年 3 月 25 日に中国関係機関の協力を得て、民営非企業組織として正式に認可された。それからの 10 年間で中国の GDP は、2004 年の約 1.9 兆ドルから、2013 年には約 9.2 兆ドルへと 5 倍近くに増加した。それに合わせるように日本企業の中国進出も拡大し、商工クラブの会員数は 2004 年末の 1,320 件 (法人：1,223 社、個人：97 名) から、2014 年 7 月末には 2,435 件 (法人：2,258 社、個人：177 名) と 1.8 倍以上に増加した。

<部会別法人会員数推移 (2004 年～2014 年)>



※2004 年～13 年は各 12 月末、2014 年は 7 月末の会員数

※1 社で複数の部会に所属する企業が 2014 年 7 月末で 115 社あり、会員数総数とは整合しない。

▼会員数推移の特徴

掲載のグラフを見ると、2007 年までは、多くの業種別部会で、会員数が急速に増加したが、この時期は、2001 年末の中国の WTO 加盟により、中国の安い労働力を活用する製造業を中心に日本企業の中国進出第 3 次ブームを追いかけた動きとなっている。

2008 年～10 年では、08 年 9 月のリーマン・ショックの影響を受け、09 年には「商社・流通、電機、電子、繊維・紙パルプ、建設・建材、金融・保険」の各部会で会員数が減少し、全体の会員数も若干減少した。一方で、中国の景気対策による影響か、「金属・機械、サービス」などは会員数を伸ばした。ただし、2011 年～12 年の期間のうち、12 年後半の日中関係の悪化までは、「金属・機械、サービス、商社・流通、資源・化学品」では、中国進出第 4 次ブームのような勢いが感じられた。

2013 年～14 年では、12 年からの日中関係悪化、円安の定着、人件費の高騰などの影響もあり、新規入会数は減少傾向となった。なお、金属・機械部会の会員数の伸びは、13 年の自動車分科会設置により、他の部会から 20 数社が複数部会に登録した影響がある。

▼今後の動向

掲載のグラフからもわかるとおり、「金属・機械、サービス、商社・流通、資源・化学品」の 4 つの部会はここ数年も着実に会員数を増加している。また、あまり目立たないが、近年では「農水食品」の会員数も増加している。その他の業種についても、ここ数年で大幅に減少した部会はなく、ほぼ横ばいであったといえる。中国国内の消費市場がさらに拡大して行く中で、自動車、サービス、流通、食品、環境関連などの分野では、日系企業が中国で活躍できる余地はまだまだあるものと思われる。

(上海日本商工クラブ 事務局長 中村 仁)